



昭和医科大学歯学部だより

2025年4・5月号

通算第234号

巻頭言

＜歯学部長 馬場 一美＞

本年4月より、本学は「昭和医科大学」として新たな歩みを始めました。これを機に、歯科医学教育と研究のさらなる深化を図り、社会への一層の貢献を目指してまいりましょう。また本年は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする大阪・関西万博が開催されています。医療、バイオ、デジタルといった先端分野における革新的技術や国際的な連携が、世界に向けて発信される絶好の機会となります。私たち歯科医療従事者も、口腔から全身の健康を支える専門職として、この万博の理念をいかに臨床・教育・研究に結びつけていくかが、今まさに問われています。アメリカの計算機科学者であり、オブジェクト指向プログラミングの概念を確立し、GUIの原型を開発したアラン・ケイ(Alan Kay)は、次のような言葉を残しています。「未来を予測する最良の方法は、それを創ることだ。」この言葉は、私たちが日々、教育・研究・臨床の現場で取り組んでいる「変化への挑戦」と深く響き合います。未来の歯科医療を創造していくのは、他ならぬ、ここに集う学生・教職員一人ひとりの思考と行動なのです。ともに、変化を恐れず挑戦を続けてまいりましょう。



P.1 【巻頭言】

P.2 【入学式が挙行されました】

【大学院入学式が挙行されました】

P.3 【白衣授与式が執り行われました】

【上條賞を受賞しました】

【大学院上條賞を受賞しました】

P.4 【教授就任のご挨拶】

【教授就任のご挨拶】

【行事予定】

【編集後記】

歯学部長 馬場 一美教授

歯学部長 馬場 一美教授

歯学研究科長 高見 正道教授

教育委員長 船津 敬弘教授

歯科病院研修医 早川 優菜

顎顔面口腔外科学 池端 陽介

保存修復学部門 小林 幹宏教授

顎顔面口腔外科学部門 大場 誠悟教授

広報委員長 柴田 陽教授

口腔解剖学講座 吉村 健太郎

入学式が挙行されました

＜歯学部長 馬場 一美＞

令和7年4月9日、本年度の入学式が明治神宮会館にて厳かに挙行されました。歯学部には、新たに100名の新入生と7名の編入生を迎え、希望に満ちた門出となりました。式典は、昭和医科大学管弦楽団による演奏で華やかに開幕し、久光学長の告辞、小口理事長からの祝辞へと続きました。さらに、昭和医科大学宣言、校歌斉唱が行われ、大学の理念と伝統が新入生に力強く伝えられました。続いて、在学生による歓迎の言葉、Medical All-Stars Jazz Orchestraによる演奏、応援指導部からのエールが贈られました。その後、内田樹理事による特別講演が行われ、示唆に富んだお話が新入生の胸に深く刻まれ、入学式は一旦閉会となりました。式典終了後には、サプライズゲストとして、若手女優としてご活躍中の橋本環奈さんが登壇し、新入生への激励の言葉を届けてくださいました。思いがけない登場に会場は大いに沸き、入学式に華やかな彩りを添える印象的なひとときとなりました。その後、新入生たちはバスに分乗し、富士吉田へと向かいました。昭和医科大学の一員として新たな一歩を踏み出したすべての新入生が、これからの学生生活を実りあるものとされることを、心より祈念申し上げます。



大学院入学式が挙行されました

＜歯学研究科長 高見 正道＞

令和7年4月5日午前10時より、昭和医科大学大学院入学式が上條記念館において挙行され、医学研究科36名、歯学研究科29名、薬学研究科13名、保健医療学研究科15名（博士前期課程13名・博士後期課程5名）が入学しました。久光学長は、「学部生の時とは異なり、大学院では医療そして科学の探究が活動の中心となります。楽な道のりではありませんが頑張ってください」と述べました。研究科長の私は「アンケートによると、修了生は大学院での成長を実感しています。皆さんもそれを信じて突き進んでください。」と述べました。その後、歯学研究科の木内彩紀さんによる昭和医科大学宣言と、校歌斉唱をもって式を閉会しました。入学式後のオリエンテーションでは、大学院運営委員長の美島健二教授が、大学院生活での心構えについて述べるとともに、入学者の皆さんを激励しました。新入生の皆様の活躍を期待しています。



白衣授与式が執り行われました

＜教育委員長 船津 敬弘＞

令和7年3月28日に上條記念館において5年生への白衣授与式が執り行われました。馬場歯学部長からは、実習に協力いただく患者さんへの感謝の気持ちを忘れないようにとの告示があり、その後86名の学生は8名の診療科長より手渡された白衣を着用して式が進められました。祝辞では、久光学長から口腔を通じて全身を診ることのできる歯科医師を目指してほしいことを、小口理事長からは医療人としてのプロフェッショナリズムを持ち、患者さんの心に寄り添う歯科医師を目指してほしいとのお話があり、学生たちは臨床実習への気持ちを新たにしているようでした。学生諸君には将来を見据えて、実りある一年を過ごしていただきたいと存じます。



上條賞を受賞しました

＜昭和医科大学歯科病院研修医 早川 優菜＞

この度は上條賞という大変光栄な賞をいただき誠にありがとうございます。このような名誉ある賞をいただけたのは、ご指導くださった先生方、共に頑張った学友たち、更には困った時に支えてくださった先輩方や後輩たちのおかげです。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。現在は昭和医科大学歯科病院の医科歯科連携診療歯科と歯科麻酔科にて臨床研修をさせていただいております。自分の思い描いている歯科医師に近づけるよう、日々多くのことを学ばせていただき充実した日々を過ごしています。これからも昭和医科大学で学んだ至誠一貫の精神を忘れずに、良き医療人となれるように精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



大学院上條賞を受賞しました

＜顎顔面口腔外科学部門 池端 陽介＞

このたびは、上條賞という名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。私の学位論文では、「IL-33 は三叉神経節ニューロンの TRPA1 機能亢進を介して神経障害性疼痛を発症させる」というテーマのもと、これまで報告のなかった、三叉神経節ニューロンにおいて線維芽細胞由来の IL-33 が神経障害性疼痛に関与することを明らかにいたしました。大学院生として、国内外の学会に参加し発表する機会を得られたことは、今後の歯科医師としての歩みにおいて大きな財産になると実感しております。本研究を進めるにあたり、多大なるご指導とご支援を賜りました代田達夫教授をはじめとする口腔外科学講座の先生方、日本大学歯学部生理学講座の先生方、ならびに他講座の多くの先生方に、心より御礼申し上げます。



教授就任のご挨拶

<保存修復学部門 小林 幹宏>

このたび、2025年4月1日付で歯科保存学講座保存修復学部門の教授を拝命いたしました、小林幹宏と申します。2006年に本学へ着任以来、多くの先生方から温かいご指導を賜りながら、貴重な経験を積んでまいりました。2024年4月に美容歯科学部門は保存修復学部門へと名称を変更し、これまで築き上げられてきた実績を礎に、新たな歩みを進めております。歯を守ることはもちろん、その機能と美しさを長く維持できる歯科医療を追求し、質の高い医療を実践できる次世代の歯科医療を担う人材の育成に尽力してまいりたいと考えております。これまでの多大なるご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後とも温かいご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



教授就任のご挨拶

<顎顔面口腔外科学部門 大場 誠悟>

この度、代田達夫先生の後任として、4月1日付けで、昭和医科大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門の教授職を拝命いたしました大場誠悟と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。臨床・教育はもとより研究を重視し、昭和医科大学発進の新しい治療方法や治療戦略の確立を目指しております。医局の中心が30代と若く馬力もありますので、代田先生が築かれてこられた基盤をもとに、臨床・研究ともに更に飛躍できるものと確信しております。まだまだ未熟で浅学の身でありますので、これからも学びを継続し、少しでも地域社会への貢献や大学の発展に尽力して参りたいと思います。今後とも変わらぬご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



行事予定

<広報委員長 柴田 陽>

6月1日(日)学祖祭、6月14日(土)昭和医科大学学生後援会 幹事会・総会

6月28日(土)昭和医科大学学士会例会(歯学部会主催)、歯学研究科研究内容中間報告

7月12日(土)歯学部入試説明会、7月24日(木)歯学研究科進学説明会

編集後記

<口腔解剖学講座 吉村 健太郎>

校名変更に伴い、2003年の創刊以来22年刊行してまいりました本誌も「昭和医科大学歯学部だより」となりました。本学が医・歯・薬・保健医療の全学部を有する医系総合大学であることを改めて実感しております。ご多忙の中、ご寄稿いただいた先生方に厚く御礼を申し上げます。

昭和医科大学 歯学部だより 通算234号 2025年5月発行

発行責任者：歯学部長 馬場 一美 編集責任者：広報委員会委員長 柴田 陽

4・5月号編集委員：吉村 健太郎（広報委員会）

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL：03-3784-8000

ホームページ：<https://www.showa-u.ac.jp>